

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：大学院保健学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価 ・25年度博士前期課程25名(定員26名)、博士後期課程10名(10名)と前期課程で入学辞退者が有り、1名の欠員があるが、定員の充足はほぼ果たしている。しかし博士後期課程で修了延期者が19名おり、研究指導体制の強化が必要である。3分野を統一した「課題研究発表会」は実施出来なかったが、3分野それぞれ中間発表会を行い、研究の質の向上に努めた。博士論文は査読英文誌への投稿を推進しているが、分野によっては適当な英文誌が無く、査読付の和文学会誌への投稿論文ある。本年度の博士論文6編の内英文誌3編、和文誌3編であった。25年度は博士前期課程の助産学コースの初の修了者6名を出した。 ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・修了者 博士前期課程 33名 博士後期課程 6名 ・がん専門看護師 3名、医学物理士 1名、助産コース 6名が資格を取得した。
①-1 目標 博士前期課程、後期課程とも定員の充足は果たしているが、休学者や長期履修者のため、特に後期課程において修了者数が十分達成できていない。そこで研究指導体制を強化し、研究の中間段階での「課題研究発表会」を3分野統一して行い、研究の質の向上に努める。最終的には学位論文のレベルアップを図り、後期課程においては査読英文誌への投稿を推進する。 博士前期課程では助産学コース、がん専門看護師、医学物理士、放射線安全・医療応用学コースと4つの専門職育成コースを持つことになり、これらのコースの教育内容の充実と教育体制の強化を進める。	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 博士前期課程、後期課程修了者数。 がん専門看護師、医学物理士、助産師の資格取得者数。	
②研究領域	自己評価 ・平成26年度の博士前期課程入学予定者は25名で、岡山大学医学部保健学科からの進学者は8名であった。進学者の割合も良好である。 ・博士前期課程の修士論文数は31編、博士後期課程 博士論文 6編 ・科学研究費 申請率、採択率(新規) 28.6%、採択件数 33件(新規12件、継続21件) ・外部資金 寄附金51件(17,891,750円)、共同研究4件(7,842,932円)、受託研究1件(450,000円) ・ウーマンテニュアトラック在籍者1名はテニユアを獲得した。26年4月より助教として任用予定である。
②-1 目標 本研究科の研究レベル向上のためには博士課程に在学する大学院生の研究レベルの向上が必要であり、これは教員の研究レベルの向上にも繋がる。その為には、岡山大学医学部保健学科からの直接または卒業生の研究科への入学を促進する。これにより、将来当研究科の教員になりうる人材を育成する。 修了後の就職支援(研究者としてのキャリア支援を含む)体制を強化する。当研究科では特に女性の割合が多く、ライフワークバランスを考えた支援を行う。 科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。そのためには、学内他部局、特に医歯薬学総合研究科、大学病院や国内の他施設との共同研究を推進する。科学研究費に関しては教員全員が申請することを必須とする。 ウーマンテニュアトラックは現在1名在籍しているが、更に発展を図る。	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学人数。 学位論文数。 科学研究費採択率。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価 ・保健学研究科の博士課程在籍者は看護師免許等の資格所有者や社会人が多く、「若手研究者キャリア育成プラン」のインターンシップへの参加が困難であった。 ・「妊娠中からの母子支援」育成プログラムによる助産師のリカレント教育は25年度は15回開講され、13名の修了者を出した。
③-1 目標 「若手研究者キャリア育成プラン」を推進し、博士号取得者の企業との共同研究や就職を支援する。 リカレント教育を通じた地域貢献として、助産師のスキルアッププログラムを継続して行う。	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 「若手研究者キャリア育成プラン」の登録学生数。	
【総括記述欄】 博士前期課程については、保健学研究科としての目標をほぼ達成できた。しかし、博士後期課程については、修了延期者が多数おり、これを解消する必要がある。研究指導体制を強化するため、准教授も研究指導出来るかを審査し、指導教員を増やした。指導体制の充実と研究の質の向上に努めている。	